

このような取り組みを行う施設を対象として、輸血後検査実施率向上のための調査研究やモデル事業を行い、得られた成果を広く還元することが必要である。

3. 輸血後感染症検査の実施状況全国調査(平成20年度)

別添1を参照。

4. 日本人における肝炎ウイルス浸透状況調査(平成21年度)

輸血前感染症検査実施集団のHBsAg陽性率(3.7%)、HCVAb陽性率(6.3%)は、初回献血者集団の陽性(HBsAg:0.63%、HCVAb:0.49%、Tanaka J et al. Intervirology 2004; 47:32-40)より、北海道という地域性を加味しても高かった。

輸血前感染症検査結果から旭川医科大学病院受診患者におけるHBV、HCVの浸透率を知ることができた。これら輸血前検査結果を集積することで、肝炎の顕性・既往感染状況を、国から病院レベルまでの様々な集団で知ることができ、輸血感染や院内感染を含めた肝炎予防対策に必要な背景情報を提供できるであろう。

E. 結論

日本輸血・細胞治療学会が平成16年度から行っている輸血業務に関する総合的アンケート調査の結果から輸血前後の感染症検査実施状況を後方視的に解析し、①輸血前検体保存は90%以上の施設で行われ、その90%の施設で

は検体は24ヵ月以上保管されていること、②輸血前感染症検査は約90%の施設で実施されているが、厚生労働省通知に記載されている感染症マーカーのすべてが検査されていないこと、③輸血後感染症検査を実施している施設の割合は約1/3であること、そして輸血後患者に対する輸血後検査実施率が20%以下の施設が大半であることが明らかとなった。

これらの成績から今後の輸血前後の感染症検査実施体制の課題を考察した。輸血前感染症検査と輸血前検体保存については、両方法の普及程度、費用対効果、新興・再興感染症への対応、周知徹底の効率などの得失面を考慮したきめ細やかな実施体制を作り上げていくことが必要と考えられた。また、輸血後感染症検査の実施率がかなり低い現況を把握できたので、実効性の高い輸血後感染症検査体制を提示する必要があると考えられた。3年間にわたり実施された本研究の成果から、効果的かつ効率的な輸血前後検査・輸血前検体保管のあり方について提言をまとめたい。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 紀野修一、友田豊、遠藤玲美、他：輸血前血清を凍結保管していたことでB型肝炎ウイルス再活性化の経過を調査しえた1例。日本輸血・細胞治療学会誌2007；53：553-557
- 2) 紀野修一：当院における輸血前・輸血後感染症検査実施のための取り組みと日本の現状。医学のあゆみ2008；225：610-611
- 3) 友田豊、紀野修一、森清香、花田大輔、武田悟、伊藤喜久：輸血事故防止のための院

内体制整備. 臨床検査2008 ; 52 : 169-175

4) 紀野修一、友田豊、伊藤喜久、他 : 旭川医科大学病院における輸血前・輸血後感染症検査の実態. 日本輸血・細胞治療学会誌 ; 2009 ; 55(1) : 21-28

2. 学会発表

1) 紀野修一、池田久實 : 輸血後感染症検査で判明した潜在性HBV感染と輸血前患者検体保管の意義. 第15回日本消化器関連学会週間 JDDW2007 (2007年10月、神戸市)、ポスター

2) 紀野修一、友田豊、伊藤喜久 : 当院における輸血前・輸血後感染症検査実施状況. 第54回日本臨床検査医学会(2007年11月、大阪市)、ポスター

3) 紀野修一 : 輸血前・後の感染症マーカー検査. 第56回日本輸血・細胞治療学会総会(2008年4月、福岡市)、ワークショップ : 2007年度輸血関連総合アンケート調査結果

4) Kino S, Takahashi K, Sagawa K, Ohto H : The nationwide survey of implementation of pre- and post-transfusion viral marker tests in Japan. 第30回国際輸血学会総会(2008年6月9日、マカオ)、口演

5) 紀野修一. 輸血前後の感染症検査・輸血前検体保管と潜在性肝炎ウイルス感染. 平成20年度

第2回輸血関連合同班会議(2009年2月21日東京)、口演

6) 紀野修一. 輸血前後感染症検査の現状. 平成21年度厚生労働科学研究費補助金輸血関連合同研究班 第一回合同班会議(2009年7月18日、東京)、口演

7) 紀野修一、花田大輔. 輸血前感染症検査からわかることー当院における肝炎ウイルス浸淫状況ー. 第56回日本臨床検査医学会(2009年8月28日、札幌)、口演

8) 紀野修一、安村敏、山口一成. 輸血前後の感染症マーカー検査からみたB型肝炎ウイルス再活性化に関する全国調査. 第13回日本肝臓学会大会(JDDW2009)(2009年10月14日、京都市)、シンポジウム

9) Kino S: Status of hepatitis viral markers calculated from pretransfusion viral marker test results of patients at Asahikawa medical college hospital. 第20回国際輸血学会(アジア・オセアニア地区総会)(2009年11月16日、名古屋市)、口演

■情報公開

1) 輸血業務に関する総合的アンケート調査結果報告書(平成16年度~19年度) :

<http://www.yuketsu.gr.jp/jittai/2008infectious.pdf>

2) 輸血業務に関する総合的アンケート調査結果報告書(平成16年度~20年度) :

http://www.yuketsu.gr.jp/information/2009/infectious_disease.pdf (別添資料2と同じ内容)

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

ウイルス肝炎感染防止体制の確立に関する総合研究

(厚生労働科学研究費補助金:肝炎等克服緊急事業)

輸血後感染症検査実施状況全国調査(平成 20 年度)のまとめ

○分担研究者 紀野修一 (旭川医科大学病院)

研究協力者 安村 敏 (富山大学附属病院)

研究代表者 山口一成 (国立感染症研究所)

(2007 年度、2008 年度)

研究代表者 浜口 功 (国立感染症研究所)

(2009 年度)

■研究の目的

本研究では、輸血後感染症検査の実施率向上のための方策について検討する。2007年度の輸血業務に関する総合的アンケート調査結果(日本輸血・細胞治療学会が実施)では、各施設における輸血後感染症検査の実施率が20%を下回る施設が全体の70%以上を占めていた。また、その中で輸血後感染症検査実施率を上げるための取り組みとしては、患者に書面で通知すること、検査に適切な時期に通知することが重要であるという意見が多く寄せられていた。すなわち、輸血後感染症の実施率向上のためには、輸血後検査を行うべき時期に患者さん宛に通知する方法が最も効果的であると考えられる。

そこで、本研究では輸血業務に関する総合的アンケート調査において「輸血後感染症検査を受検して貰うための貴院の取り組みのうち、最も効果的と考えている方法を選択して下さい」という設問に対し、「輸血後感染症検査を行うのに適切な時期がきたら、患者宛に直接郵便などで通知している」という回答を選択された施設を対象に輸血後感染症検査の実施率を調査することにした。調査にあたっては、輸血後患者が必ずしも通知を出した施設で検査をうけていないことを考慮し、輸血後検査受検のお知らせ送付の際に輸血後検査を受検したことを報告するはがきを添付し、検査を受検した施設から受検結果を送付して貰う方式を採用した。回収したはがきから輸血後感染症検査の実施状況を全国レベルで明らかにし、輸血患者の安全性確保のための輸血後感染症検査の方策を考案する。

■研究方法(図1)

- 1) 2007年度の輸血業務に関する総合的アンケート調査の設問(I-63)で、回答枝(5)「輸血後感染症を行うのに適切な時期がきたら、患者宛に直接郵便などで通知している」を選択した37施設に対し、調査運営会社(H&T)を通じて研究参加の依頼と参加登録票を送る。
- 2) 参加可能施設(11施設)を対象に全国調査を実施
 - ① 輸血後感染症検査を郵便などで直接患者宛に通知する際に、研究班で用意した輸血後検査受検報告はがき(図2; 回答欄の輸血実施施設名、施設の都道府県名、最終輸血日は、輸血実施施設で記入済のもの)を同封する。
 - ② 通知を受けた患者は輸血後検査受検報告はがきを持参し、輸血後感染症検査を受検する(受検施設を問わない)。
 - ③ 輸血後検査を実施した施設では、輸血後検査受検報告はがきの回答欄を埋め、研究班事務局に送付する。
 - ④ 対象期間内に各施設で輸血後検査通知を行った患者数を研究班事務局に報告して貰い、輸血後検査実施率を求める。各施設の実施率は事務局から各施設にフィードバックする。なお、輸血後検査受検報告はがきの回答項目は、輸血実施施設での記入項目として輸血実施施設名とその都道府県及び(最終)輸血実施日、輸血後検査受検施設での記入項目として検査実施施設名とその所在地、輸血後検査実施の有無、検査実施日と検査項目およびその

結果とした。回答はがきには患者の個人情報that特定できる内容はない。また、輸血後検査受検報告はがきは圧着はがきとし、情報管理に配慮した。(図2)。

■結果

輸血後感染症実施状況調査への参加を依頼した施設数は 38 施設で、ベッド数の合計は 12,233 床(平均 321、最小 80、最大 810)であった。参加可能と回答した施設は 11 施設で、ベッド数合計は 4,543 床(平均 413、最小 136、最大 810)であった。参加施設の輸血後検査通知の概数は予備調査では全体で 450 名/月ほどであった。

1. 輸血後感染症検査の説明と同意(表 1)

1) 説明の有無

輸血後感染症検査の実施に対する説明は全ての施設で行われていた。文書を用いた説明が 6 施設、口頭での説明が 3 施設、文書もしくは口頭の説明が 2 施設であった。

2) 説明者

輸血後感染症検査についての説明は全て医師が行っていた。

3) 説明の時期

説明時期は輸血の IC 時が 9 施設、入院時又は輸血の IC 時が 1 施設、退院時または退院後外来受診時が 1 施設であった。

2. 輸血後感染症検査受検のお知らせ(表 1)

1) 説明の有無

輸血後検査のお知らせを送付することについての説明を行っている施設は 8 施設、行っていないのが 2 施設、あとの 1 施設は回答なしであった。説明を行っている施設のうち、文書を用いているのが 5 施設、口頭が 3 施設であった。

2) 説明者

お知らせの送付を説明しているのは担当医が 7 施設、輸血部職員が 1 施設であった。

3) 説明時期

お知らせ送付に関する説明の時期は、輸血の IC 時が 6 施設、退院時に輸血部門職員が説明している施設が 1 施設であった。

4) 同意の有無

お知らせの送付についての同意を取得している施設は 7 施設であった。そのうち、文書を用いている施設が 4 施設、口頭の施設が 2 施設、文書又は口頭の施設が 1 施設であった。

5) 同意の時期

同意取得の時期は輸血の IC 時が 4 施設、入院時又は輸血の IC 時が 1 施設、退院時が 1 施設、退院時または退院後外来受診時が 1 施設であった。

3. 輸血後感染症検査の実施(表 2)

1) お知らせの発送時期

最終輸血から輸血後検査のお知らせを送付するまでの期間は、60～90 日が 6 施設、90～120 日が 2 施設であった。最終輸血日が把握しにくいので初回輸血開始日から 7 日目にお知らせを送付している施設が 1 施設あった。

2) お知らせの作成者

輸血部門職員が輸血後検査のお知らせを作成している施設が 6 施設、病院事務職員が作成しているのが 3 施設であった。

3) お知らせの送付法

お知らせの送付法は、封書が 7 施設、はがきが 1 施設であった。1 施設では地域連携室を介して転院先施設に直接届けていた。

4) 検査結果の通知法

自院で行った輸血後検査結果の通知は再来時などに主治医から直接患者に通知するのが 6 施設、輸血部門から結果を送付するのが 2 施設、輸血部門以外から送付するのが 1 施設、主治医から通知するか又は輸血部門以外から送付するのが 1 施設あった。

4. 対象時期の輸血患者数とお知らせ通知数

1) 輸血後感染症検査の対象者(表 3)

調査対象期間中に輸血後感染症検査の対象となった患者数は全部で 1,065 名で、同時期に輸血を実施した患者総数は 2,064 名であった。全輸血患者に対する輸血後検査対象患者の割合は施設により 0～89.7%と差を認めた。全体では輸血患者の 51.6%が輸血後感染症検査の対象となっていた。

2) 受検報告はがきの回収率(表 4)

輸血後検査対象患者 1,065 名のうち 991 名の患者に輸血後検査のお知らせ送付時に輸血後検査受検報告はがきが添付された。受検報告はがきの回収率は施設別には 0～53.3%で、全体では 30.5%であった。

3) 輸血後検査の受検施設(表 5)

回収された輸血後検査受検報告はがきの記載内容から、輸血後検査の実施施設が自施設か他施設かを集計した。自施設で検査をうけた患者の割合は、41.5～100%で、全体では 68.5%であった。他施設で検査をうけた患者の割合は 0～53.7%で全体では 29.4%であった。

4) 最終輸血から輸血後検査受検までの期間

回収された輸血後検査受検報告はがきの記載内容から、最終輸血日から輸血後検査実施日までの期間を求めた。その期間は全体では平均 104.5 ± 29.1 日(中央値 98 日、最小値 17 日、最大値 210 日)であった。輸血開始後 7 日目にお知らせを送付している施設番号 001 を除くと、平均 107.4 ± 31.5 日(中央値 102 日、最小値 17 日、最大値 210 日)であった。輸血後感染症件のお知らせを受け取ってからさほど時間を空けずに検査を受検している患者が多

いと考えられる。

■まとめ

- 1)各施設で行われている輸血後感染症検査実施体制の詳細が明らかになった。
- 2)全輸血患者に対する輸血後感染症検査対象患者は、毎月約 50%程度と推定された。(輸血後検査の対象にならないのは死亡患者や継続輸血患者である。最後の輸血から60日以上経過している輸血患者は約 50%存在する)
- 3)輸血後検査受検報告はがきの回収率は 30%であった。輸血後感染症検査の実施施設は約 70%が自施設で、残りは輸血を受けた施設以外であった。
- 4)最終輸血から輸血後検査を受検するまでの期間は約 100 日程度で、輸血後検査のお知らせを受け取ってからさほど時間を空けずに検査をうけている患者が多いと考えられた。

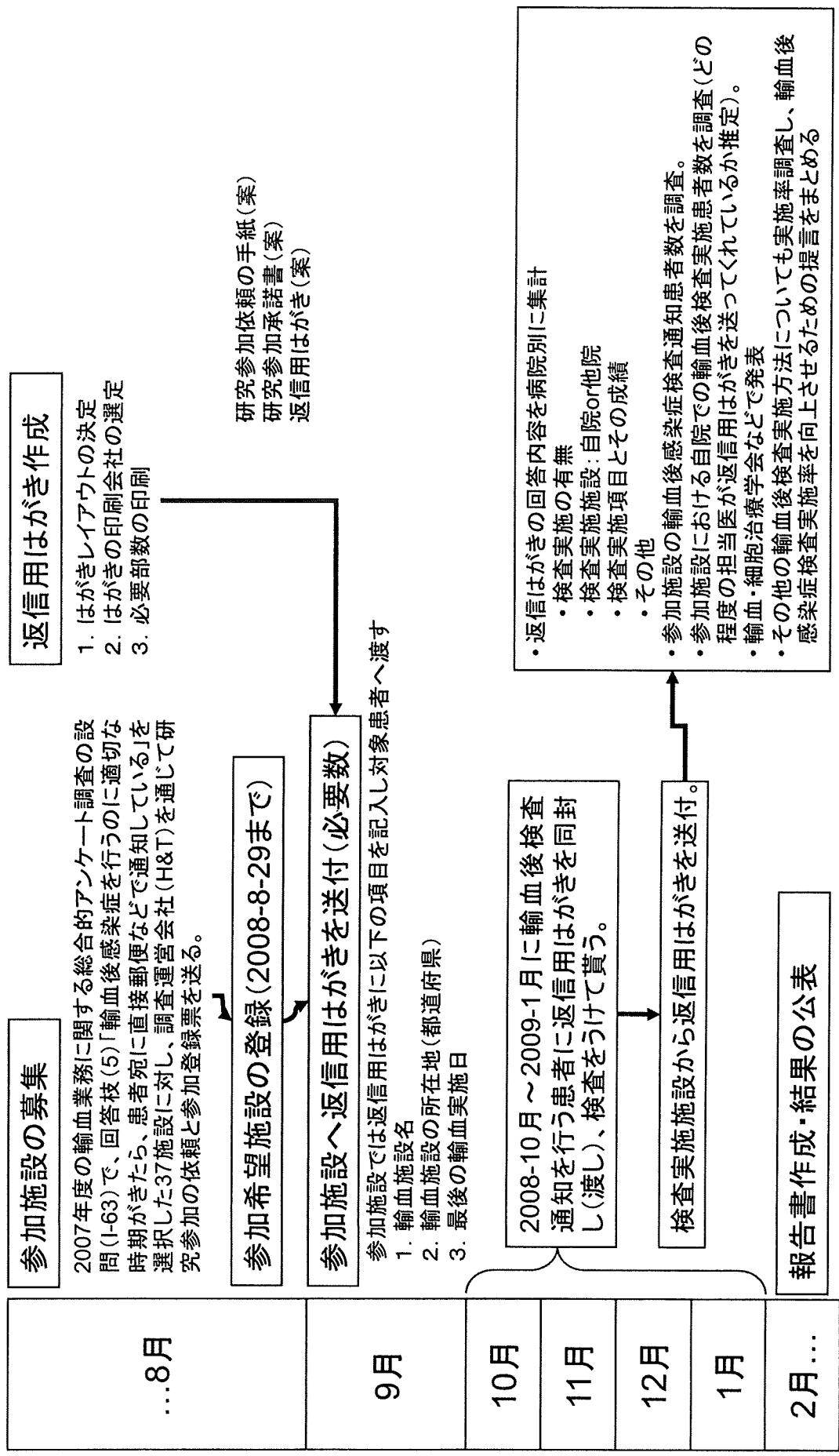
■今後の予定

- 1)標本数が少ないので、2009 年度も継続して本調査を実施し、より詳細なデータを得る。
- 2)2009 年度の参加施設の輸血後検査の実施法をまとめた小冊子を作成し、全国の施設に配布し、輸血後感染症検査の実施を推進する。

輸血後感染症検査実施状況全国調査(研究期間 2008-07~2009-03) 適切な時期に輸血後感染症検査実施を直接患者へ通知する方法についての全国調査

図1

ウイルス肝炎感染症防止体制の確立に関する総合研究(厚生労働科学研究費補助金・肝炎等克服緊急事業)
研究代表者 山ロー一成(国立感染症研究所)、分担研究者 紀野修一(旭川医科大学病院)、研究協力者 安村 敏(富山大学附属病院)



輸血後感染症検査実施体制(1)

施設 番号	1)輸血後検査の実施について				2)輸血後検査のお知らせを送付することについて				
	病床数	説明の有無	説明者	説明の時期	説明の有無	説明者	説明の時期	同意の有無	同意の時期
001	810	あり (文書)	担当医	輸血のIC時	あり (文書)	担当医	輸血のIC時	なし	
002	612	あり (文書)	担当医	輸血のIC時	あり (口頭)	輸血部門 職員	退院時	あり (口頭)	退院時
003	602	あり (文書)	担当医	輸血のIC時	あり (文書)	担当医	輸血のIC時	あり (文書)	輸血のIC時
004	549	あり (文書)	担当医	輸血のIC時	あり (文書)	担当医	輸血のIC時	あり (文書)	入院時・ 輸血のIC時
005	498	あり (文書)	担当医	輸血のIC時					
006	461	あり (口頭)	担当医	退院時・ 退院後外来受診時	あり (文書)	担当医	入院時・ 検査の1~2カ月前	あり (口頭)	退院時・ 退院後外来受診時
007	273	あり (文書)	担当医	輸血のIC時	あり (文書)	担当医	輸血のIC時	あり (文書)	輸血のIC時
008	222	あり (口頭)	担当医	輸血のIC時	あり (口頭)	担当医	輸血のIC時	あり (文書)	輸血のIC時
009	200	あり (口頭・文書)	担当医	輸血のIC時	なし				
010	180	あり (口頭)	担当医	輸血のIC時	なし				
011	136	あり (口頭・文書)	担当医	入院時・ 輸血のIC時	あり (口頭)	担当医	輸血のIC時	あり (口頭・文書)	輸血のIC時

輸血後感染症検査実施体制(2)

施設 番号	病床数	3)お知らせの送付について			4)輸血後検査結果の通知法	
		最終輸血から送 付までの期間	作成者	送付法	通知法	
001	Mar-02	初回輸血日から 7日目	輸血部門職員	郵便(封書)	再来時などに主治医が報告	
002	Sep-01	60-90日	病院事務職員	郵便(封書)	再来時などに主治医が報告	
003	Aug-01	60-90日	輸血部門職員	郵便(封書)	輸血部門から結果を送付	
004	Jul-01	60-90日	輸血部門職員	郵便(葉書)	輸血部門から結果を送付	
005	May-01					
006	Apr-01	60-90日	輸血部門職員	地域連携室を介し転院先 施設に直接届けている	再来時などに主治医が報告	
007	Sep-00	60-90日	病院事務職員	郵便(封書)	再来時などに主治医が報告・ 輸血部門以外から結果を送付	
008	Aug-00	90-120日	病院事務職員	郵便(封書)	輸血部門以外から結果を送付	
009	Jul-00	90-120日	輸血部門職員	郵便(封書)	再来時などに主治医が報告	
010	Jun-00				再来時などに主治医が報告	
011	May-00	90-120日	輸血部門職員	郵便(封書)	再来時などに主治医が報告	

注：施設番号001
は最終輸血日が把握
しにくいので、輸
血開始日から7日
目にお知らせを送
付

輸血後検査の対象患者

施設番号	病床数	輸血後検査対象患者数 (2008/10～2009/1)	輸血後検査対象患者と同 時期の全輸血患者数	全輸血患者に対する輸血 後検査対象患者の割合
001	810	270	427	63.2%
002	612	208	369	56.4%
003	602	229	432	53.0%
004	549	43	76	56.6%
005	498	68	235	28.9%
006	461	96	107	89.7%
007	273	35	102	34.3%
008	222	15	100	15.0%
009	200	56	89	62.9%
010	180	0	47	0%
011	136	45	80	56.3%
計	4543	1065	2064	51.6%

注：施設番号001は
2008年10月～12月の
3ヶ月間。施設番号004
は2008年12月～2009
年1月の2ヶ月間。

輸血後検査実施状況調査の対象患者と受検報告はがき回収率

施設番号	病床数	輸血後検査対象患者数 (2008/10~2009/1)	受検報告ハガキ添付数 (2008/10~2009/1)	受検報告ハガキ回収数(%) (2008/10~2009/5)
001	810	270	270	66 (24.4)
002	612	208	208	65 (31.3)
003	602	229	229	82 (35.8)
004	549	43	43	0 (0.0)
005	498	68	68	26 (38.2)
006	461	96	22	11 (50.0)
007	273	35	35	11 (31.4)
008	222	15	15	8 (53.3)
009	200	56	56	19 (33.9)
010	180	0	0	0 (0.0)
011	136	45	45	14 (31.1)
計	4543	1065	991	302 (30.5)

注：施設番号001は 注：施設番号006は他 料金受取人払いの期限が
 2008年10月～12月の 施設へ転院した患者にの 2009/2/28までであった
 3ヶ月間。施設番号004 み受検報告ハガキを添付 ため、3月～5月の回収率は
 は2008年12月～2009 しているため、対象患者数 低い可能性あり
 年11月の2ヶ月間。 と値が異なる

内訳	
Sep-08	1
Oct-08	27
Nov-08	38
Dec-08	48
Jan-09	73
Feb-09	60
Mar-09	23
Apr-09	2
May-09	1

輸血後検査の受検施設

施設番号	受検報告ハガキ回収数 (2008/10~2009/5)	輸血後検査実施施設		
		自施設(%)	他施設(%)	不明(%)
001	66	51 (77.3)	15 (22.7)	0 (0)
002	65	46 (70.8)	17 (26.2)	2 (3.1)
003	82	34 (41.5)	44 (53.7)	4 (4.9)
004	0			
005	26	22 (84.6)	3 (11.5)	1 (3.8)
006	36	25 (69.4)	11 (30.6)	0 (0)
007	11	9 (81.8)	2 (18.2)	0 (0)
008	8	8 (100.0)	0 (0.0)	0 (0)
009	19	16 (84.2)	3 (15.8)	0 (0)
010	0			
011	14	13 (92.9)	1 (7.1)	0 (0)
計	327	224 (68.5)	96 (29.4)	7 (2.1)

注：施設番号006は他施設へ転院した患者にのみ受検報告ハガキを添付しているため、はがき回収数(11)に自施設での検査実施件数(25)を加えてある

最終輸血～輸血後検査受検までの期間(日)

施設番号	お知らせ送付までの期間	受検報告/ガガキ回収数 (2008/10～2009/5)	解析対象 患者数	平均 (日)	標準偏差 (日)	中央値 (日)	最短 (日)	最長 (日)
001	輸血開始から 7日目	66	61	94.6	14.9	91	70	163
002	最終輸血から 60-90日	65	51	112.5	43.4	112	27	210
003	最終輸血から 60-90日	82	80	97.5	19.0	92	66	162
004	最終輸血から 60-90日	0						
005		26	26	95.1	14.9	93	67	126
006	最終輸血から 60-90日	11	7	107.6	18.3	110	81	135
007	最終輸血から 60-90日	11	11	124.7	23.2	114	100	172
008	最終輸血から 90-120日	8	8	118.9	12.4	118	94	133
009	最終輸血から 90-120日	19	17	112.1	42.3	121	17	167
010		0						
011	最終輸血から 90-120日	14	12	148.1	23.5	147	101	188
計		302	273	104.5	29.1	98	17	210
計	(施設001を除く)	(236)	(212)	(107.4)	(31.5)	(102)	(17)	(210)

注:最終輸血
日、輸血後検
査受検日の記
入漏れを除く

輸血業務に関する総合的アンケート調査結果報告

- 輸血前後の感染症検査、輸血前検体保存などについて —

本報告書は、平成16年度から20年度にかけて、厚生労働科学「血液新法に伴う輸血管理体制と安全管理・適正使用マネジメントシステムの構築」研究班(主任:東京大学 高橋孝喜教授)、「同種血輸血安全性向上に伴う自己血輸血適応の再検討」研究班(主任:久留米大学 佐川公矯教授)、「ウイルス肝炎感染防止体制の確立に関する総合研究」研究班(主任:国立感染症研究所 山口一成部長)、日本輸血・細胞治療学会の協力で行われた「輸血業務に関する総合的アンケート調査」のなかから、輸血前後の感染症マーカー検査、輸血前検体保存、輸血前後の検査や検体保存に対する説明と同意、生物由来製品感染等被害救済制度などに関する調査結果をまとめたものです。研究分担者全ての

平成21年7月

- 厚生労働省科学研究費補助金 肝炎等克服緊急研究事業
ウイルス肝炎感染防止体制の確立に関する総合研究(H19-肝炎-一般-003)
主任研究者 山口一成
分担研究者 紀野修一、大戸 斉、高橋孝喜、高松純樹、安村 敏
- 日本輸血・細胞治療学会 輸血療法の安全性委員会
感染症小委員会
委員長 紀野修一

アンケート調査の回答率

回	年度	依頼施設数	回答施設	回答率(%)
1.	平成16年度	1355	829	61.18
2.	平成17年度	1355	857	63.25
3.	平成18年度	1355	872	65.35
4.	平成19年度			
	基本設問	1341	844	62.94
	詳細設問	1341	375	27.96
5.	平成20年度			
	基本設問	7857	3206	40.83
	詳細設問	2046	1032	50.44

平成19,20年度調査では、自発的に協力頂ける施設に対する詳細設問を準備し、輸血後感染症検査におけるHBV、HCV、HIV陽性者の実態を調査した。

輸血業務に関する総合的アンケート調査(平成16～20年度) 輸血前後の感染症検査関係の結果集計

設問分野	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	設問		選択枝	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度 (前年と同一施設に限定)	
						設問番号	回答数		%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
輸血前検査	○ 47	○ 63	○ 36	輸血用血液を輸血する前に患者さんの感染症検査をしていますか		1	595	73.1	596	71.0	624	72.7						
				2	162	19.9	191	22.7	178	20.8								
				3	57	7.0	53	6.3	56	6.5								
						計		814	840	858								

輸血前検査	○ 1-49	○ 2-30	輸血前にHBV、HCV、HIVに関する感染症マーカーの検査(輸血前感染症検査)を行うことを知っていますか		1				835	99.4	985	98.9	542	99.8
			2				5	0.6	10	1.0	1	0.1		
					計		840	840	995	840	995	543		

輸血前検査	○ 1-50	[平成19年度設問1-49で]「1.知っている」場合、遡及調査のガイドラインに沿って輸血前感染症検査を行っていますか		1					184	22.1			
		2				52	6.3						
		3				507	61.0						
		4				88	10.6						
				計		831							

輸血前検査	○ 1-28	遡及調査のガイドラインに沿って輸血前感染症検査を行っていますか		1									532	19.8	149	23.4
		2											178	6.6	45	7.1
		3											1633	60.9	380	59.7
		4											339	12.6	63	9.9
				計		2682						2682	637			

輸血業務に関する総合的アンケート調査(平成16～20年度) 輸血前後の感染症検査関係の結果集計

設問分野	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	設問	選択枝	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度(全施設)		平成20年度(前年と同一施設に限定)	
	設問番号	回答数	回答数	回答数	回答数			回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
輸血前検査	○ 輸血前にHBV,HCV,HIVに関する感染症マーカーの検査(輸血前感染症検査)を行っていますか 2-31	1				1 行っている										722	72.4	397	72.7
		2				2 行っていない										275	27.6	149	27.3

計

997 546

輸血前検査	[平成19年度設問1-49で]「4. 行っていない」場合、行わない理由は何ですか ○ [平成20年度設問2-31で]「2. 行っていない」場合、行わない理由は何ですか	1				1 保険で査定されるため										5	5.7	23	8.5	10	6.8	
		2				2 輸血前検体保存を行っているため											64	72.7	206	76.3	119	81.0
		3				3 行う意味がないため											0	0.0	0	0.0	0	0.0
		4				4 その他											19	21.6	41	15.2	18	12.2

計

270 147